

『竹取物語』「かぐや姫の嘆き」(文法)

八月十五日ばかりの月に出で①**みて**、かぐや姫いと②**いたく泣きたまふ**。人目も今は③**つつみたまはず泣きたまふ**。これを④**見て**、親どもも「何事ぞ。」と問ひさわぐ。

かぐや姫泣く泣く言ふ、「先々も⑤**申さむ**と思ひしかども、必ず心惑はしたまはむものぞと思ひて、今まで過ごし⑥**はべり**つるなり。さのみやはとて、うち出ではべりぬるぞ。おのが身はこの国の人にも⑦**あらず**。月の都の人なり。それを、昔の契りありけるによりなむ、この世界には⑧**まうで**来たりける。今は帰るべきなりにければ、この月の十五日に、かのもとの国より、迎へに人々まうで来むず。さらず⑨**まかりぬ**べければ、おぼし嘆かむが⑩**悲しき**ことを、この春より思ひ嘆きはべるなり。」と言ひて、

⑪**いみじく泣く**を、翁、「こは、なでふことのたまふぞ。竹の中より見つけ⑫**きこえたり**しかど、菜種の大きき⑬**おはせし**を、わが丈立ち並ぶまで⑭**養ひ**たてまつりたるわが子を、何人か迎へきこえむ。まさ

に許さむや。」と言ひて、「我こそ⑮**死なめ**。」とて、泣きののしること、いと堪へがたげなり。

かぐや姫のいはく、「月の都の人にて、父母あり。片時の間とて、かの国よりまうで来しかども、かくこの国にはあまたの年を⑯**経ぬ**るになむありける。かの国の父母のこともおぼえず、ここには、かく久しく遊びきこえて、ならひたてまつれり。いみじからむ心地もせず。悲しくのみある。されど、おのが心ならず、まかりなむとする。」と言ひて、もろともにいみじう泣く。

使はるる人々も、年ごろならひて、立ち別れなむことを、心ばへなど⑰**あてやかに** ⑱**うつくしかり**つることを見ならひて、恋しからむことの堪へがたく、湯水飲まれず、同じ心に嘆かしがりけり。

問 傍線部①～⑱の活用の種類と活用形を答えなさい。

①						
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						
⑯						
⑰						
⑱						

※変格活用は、「ナ変」「ラ変」「カ変」「サ変」としててください。

『竹取物語』「かぐや姫の嘆き」(文法) 解答

八月十五日ばかりの月に出で①**みて**、かぐや姫いと②**いたく泣きたまふ**。人目も今は③**つつみたまはず泣きたまふ**。これを④**見て**、親どもも「何事ぞ。」と問ひさわぐ。

かぐや姫泣く泣く言ふ、「先々も⑤**申さむ**と思ひしかども、必ず心惑はしたまはむものぞと思ひて、今まで過ごし⑥**はべり**つるなり。さのみやはとて、うち出ではべりぬるぞ。おのが身はこの国の人にも⑦**あらず**。月の都の人なり。それを、昔の契りありけるによりなむ、この世界には⑧**まうで**来たりける。今は帰るべきなりにければ、この月の十五日に、かのもとの国より、迎へに人々まうで来むず。さらず⑨**まかりぬ**べければ、おぼし嘆かむが⑩**悲しき**ことを、この春より思ひ嘆きはべるなり。」と言ひて、⑪**いみじく泣く**を、翁、「こは、なでふことのたまふぞ。竹の中より見つけ⑫**きこえたり**しかど、菜種の大きき⑬**おはせし**を、わが丈立ち並ぶまで⑭**養ひ**たてまつりたるわが子を、何人か迎へきこえむ。まさ

に許さむや。」と言ひて、「我こそ⑮**死なめ**。」とて、泣きののしること、いと堪へがたげなり。  
かぐや姫のいはく、「月の都の人にて、父母あり。片時の間とて、かの国よりまうで来しかども、かくこの国にはあまたの年を⑯**経ぬ**るになむありける。かの国の父母のこともおぼえず、ここには、かく久しく遊びきこえて、ならひたてまつれり。いみじからむ心地もせず。悲しくのみある。されど、おのが心ならず、まかりなむとする。」と言ひて、もろともにいみじう泣く。

使はるる人々も、年ごろならひて、立ち別れなむことを、心ばへなど⑰**あてやかに** ⑱**うつくし**かりつることを見ならひて、恋しからむことの堪へがたく、湯水飲まれず、同じ心に嘆かしがりけり。

問 傍線部①～⑱の活用の種類と活用形を答えなさい。

①	上一段	連用形	②	ク活用	連用形	③	四段	連用形
④	上一段	連用形	⑤	四段	未然形	⑥	ラ変	連用形
⑦	ラ変	未然形	⑧	下二段	連用形	⑨	四段	連用形
⑩	シク活用	連体形	⑪	シク活用	連用形	⑫	下二段	連用形
⑬	サ変	連用形	⑭	四段	連用形	⑮	ナ変	未然形
⑯	下二段	連用形	⑰	ナリ活用	連用形	⑱	シク活用	連用形
⑲	シク活用	未然形						

※変格活用は、「ナ変」「ラ変」「カ変」「サ変」としててください。